


# 鳥取市 G I G A スクール構想について Ver. 5

令和 8 年 4 月  
鳥取市教育委員会

## 《ver. 4からの主な変更点》

- 第 2 期端末に関わるページについて内容を更新 (P3, P10, P13, P15他)
- 小学校 3 年生以上の利用回数を増加 (P4)
- 第 2 期情報化推進計画について (P9)
- タブレットのパスワードを必須化。教員は 6 桁以上 (P11)
- 家庭への持ち帰りについて (P25)
- 鳥取市教委が作成しているポータルサイトの変更と追加 (P37)
- 中学校技術・家庭科の教材について (P38)

\*内容が大きく変更になっているページはタイトルを  としています。  
\*新規の内容は、赤字で記載しています。  
\*重要な部分は、太字（下線）で記載しています。

# 目次

## 第1章 鳥取市G I G Aスクール構想

|   |                                    |   |   |
|---|------------------------------------|---|---|
| 1 | 鳥取市G I G Aスクール構想（全体構想）             | P | 1 |
| 2 | 鳥取市G I G Aスクール構想の取組構想              | P | 2 |
| 3 | 鳥取市G I G Aスクール構想整備計画（令和2年度～）       | P | 3 |
| 4 | 利活用について                            | P | 4 |
|   | （1）鳥取市が進める利活用計画                    | P | 4 |
|   | （2）鳥取市小・中・義務教育学校9年間で育てたい情報活用能力の体系表 | P | 5 |
|   | （3）児童生徒用端末を活用した学習場面とその例            | P | 6 |
| 5 | 第2期鳥取市学校教育情報化推進計画について              | P | 9 |

## 第2章 運用ガイドライン

|   |                           |   |    |
|---|---------------------------|---|----|
| 1 | タブレット端末（i P a d）          | P | 10 |
|   | （1）端末について                 | P | 10 |
|   | （2）MDMによる管理・制限            | P | 11 |
|   | （3）端末の学年持ち上がり             | P | 12 |
| 2 | アプリケーション等                 | P | 13 |
|   | （1）初期設定されているアプリケーション等について | P | 13 |
|   | （2）アプリケーション等の追加について       | P | 13 |
|   | （3）アプリケーション等追加の流れ         | P | 14 |
|   | （4）ホーム画面の構成               | P | 15 |
|   | （5）個別の教育的ニーズに応じた支援        | P | 16 |
|   | （6）アプリカタログ（アプリ一覧表）        | P | 17 |

|    |                                   |   |    |
|----|-----------------------------------|---|----|
| 3  | タブレット端末の保管・充電                     | P | 18 |
| 4  | G o o g l eアカウント                  | P | 19 |
| 5  | データの保存                            | P | 20 |
| 6  | タブレット端末使用規定                       | P | 21 |
| 7  | タブレット端末活用のルール約束                   | P | 22 |
| 8  | デジタルシティズンシップ教育、情報モラル教育            | P | 23 |
| 9  | 健康面への配慮                           | P | 24 |
| 10 | 端末の校外への持ち出し、家庭への持ち帰り              | P | 25 |
| 11 | 不具合、故障、破損等への対応                    | P | 27 |
| 12 | 校内通信ネットワーク（校内通信NW）                | P | 28 |
| 13 | 可搬型Wi-Fiルーター                      | P | 29 |
| 14 | 大型提示装置（大型モニター電子黒板プロジェクター）         | P | 30 |
| 15 | Webカメラ・マイク                        | P | 31 |
| 16 | 端末管理台帳、使用者名簿                      | P | 32 |
| 17 | 授業支援ソフト（Google Workspace、ミライシード等） | P | 33 |
| 18 | 学習eポータル、MEXCBT                    | P | 34 |
| 19 | 校務におけるICT活用                       | P | 35 |
| 20 | 保護者連絡のデジタル化                       | P | 36 |
| 21 | 鳥取市教委が作成しているポータルサイト               | P | 37 |
| 22 | 中学校技術・家庭科（技術分野）内容「D情報の技術」の教材について  | P | 38 |
|    | 鳥取市G I G Aスクール構想に関する問合せ           | P | 39 |

# 第1章 鳥取市GIGAスクール構想

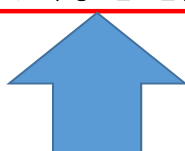
## 1 鳥取市GIGAスクール構想(全体構想)



“ふるさとを思い 志をもつ人づくり”を進め、“夢と希望に満ちた次代”を“ひらく”！  
-未来へかける とつとりのちから-

### 魅力と徹底による学力の向上

主体的・対話的で深い学びの実現につながるICT活用の工夫



### 豊かなかかわりによる自己有用感の育成

自発的・自治的な活動を充実させるためのICT活用の工夫

### 「鳥取市GIGAスクール構想の目的」

- 1人1台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- ICTを効果的に活用した学びを推進し、1人1台端末を活用した授業改善をととして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

### 1人1台端末を活用した「学びの深化、転換」

#### 一斉学習



分かりやすく教材提示して興味・関心を高め、一人一人の反応や考えを即時に把握し、魅力ある授業づくりを進めます。

教師による魅力ある教材提示や一人一人の反応を踏まえたきめ細やかな指導等、双方向型の授業を進めます。

#### 個別学習



疑問や課題について深く調べることや、一人一人の習熟の程度に応じた学習に取り組み、学習内容の定着を図ります。

各自が同時に別々の内容を学習でき、学習履歴が自動的に記録される等、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習や個に応じた指導により、指導の個別化と学びの個性化の充実を図ります。

#### 協働学習



一人一人の意見や考えを可視化し、発表や意見交換を行うことで思考力、判断力、表現力を育成します。

一人一人の意見や考えを即時に共有して発表することや、共同編集することで、子ども同士で双方向の意見交換を行い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。

### GIGAスクール構想で充実する主な学習例

|        |                                            |                        |                                                                       |
|--------|--------------------------------------------|------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| ◆調べ学習  | 課題や目的に応じて、インターネット等を使い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析 等 | ◆遠隔教育                  | 他校や学習にかかわる人々との交流、不登校の子どもと教室をつないだ学び、災害や感染症等による緊急時における学校と家庭との双方向のやりとり 等 |
| ◆表現・制作 | 写真・音声・動画・グラフや表等を用いた多様な資料・作品の制作、文章の作成 等     | ◆情報モラル、デジタル・シティズンシップ教育 | 実際に情報・情報技術を活用する場面が増え、情報モラル、デジタル・シティズンシップを意識する機会の増加                    |

### 【鳥取市GIGAスクール構想の目的】

- 1人1台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びで、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- ICTを効果的に活用した学びを推進し、1人1台端末を活用した授業改善をととして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

#### <魅力と徹底による学力の向上>

- 授業改善
  - ・学習課題の配付・回収
  - ・アンケート機能を活用した実態把握
  - ・Webサイト上の動画コンテンツ視聴
  - ・Webサイト上のプログラミング教材活用
  - ・授業と家庭学習との連動
- eラーニング教材の活用
  - ・適問題、帯時間、小テスト、家庭学習での復習・予習
- 緊急時における学びの保障
  - ・eラーニング教材等を活用した家庭学習
  - ・Web会議を活用した遠隔授業

#### <児童生徒支援>

- 相談活動の充実
  - ・アンケート機能を活用し、きめ細やかな実態把握による相談活動の充実
- 長期入院や不登校の児童生徒への学習支援
  - ・eラーニング教材を活用し、相談室や自宅等で学習
  - ・Web会議等を活用し、相談室や自宅等で教室の学習の様子を視聴
- 日本語指導の必要な児童生徒への支援
  - ・Web会議を活用した遠隔指導
  - ・翻訳アプリの活用

#### <自治力のある集団づくり>

- 自己有用感の育成
  - ・アンケート機能を活用した実態把握
  - ・児童生徒が自身の成長を実感するための記録
- 交流学习や情報交換
  - ・Web会議を活用し、遠隔地の学校や企業等と交流

#### <特別支援教育>

- 一人一人の教育的ニーズに対応した指導、支援
  - ・デジジー教科書等、個々の実態や教育的ニーズに対応した学習教材、アプリの活用
  - ・拡大表示、背景色の反転、音声読み上げ機能等、アクセシビリティによる学びの支援

#### <教職員研修等でのフォローアップ>

- ・端末を活用した授業づくり、授業支援ソフトを活用した双方向型の授業づくり等の教職員研修を実施
- ・オンライン講義、オンデマンド配信、ハイフレックス方式等、多様な研修機会の提供
- ・教職員支援サイトで教材やデジタルコンテンツ等を共有

#### <働き方改革>

- ・小テストや定期テスト等の自動採点(採点補助システム導入)
- ・クラウド活用による行事予定や会議資料、教材等の共有化
- ・Webフォーム等を活用した各種アンケート集計の効率化
- ・学校と保護者との連絡のデジタル化

## 3 鳥取市GIGAスクール構想整備状況(令和2年度～)

### 1 校内通信ネットワーク整備

- ◇校内無線LAN整備(R2)
- ◇電源キャビネット整備(R2)
- ◇校内無線LAN追加整備(R4～)
  - ・主に特別教室を追加整備
- ◇モバイルWi-Fiルーター整備(R4～)
- ◇ネットワークアセスメント(R5～)



### 2 児童生徒1人1台端末整備

- ◇iPad(R2)
  - ・小・義務教育学校1、2年生:キーボード無し、保護カバー付
  - ・小学校3年生～ 中学校3年生・義務教育学校9年生:キーボード付
- ◇キーボード追加整備(R6～)
- ◆iPad(R8)
  - ・全台キーボード付

### 3 教員用端末整備

- ◇iPad(R2) ※キーボード付
  - ・主に学級担任、教科担任等に配備
- ◇iPad追加整備(R4～)
  - ・級外教職員等に配備

### 4 周辺機器整備

- ◇大型モニター用 接続アダプター(R2)
- ◇大型モニター等拡大提示装置追加整備(R2・3)
- ◇電子黒板等大型提示装置追加整備(R4～)



### 5 eラーニング教材の導入

- ◇eラーニング教材「すらら」(R2)
- ◇eラーニング教材「タブレットドリル」(R3～4)
- ◆eラーニング教材「ミライシード(ドリルパーク)」(R5～)

### 6 GIGAスクールサポーター、GIGAスクール運営支援センター

- ◇ICT環境整備設計等業務委託業務(R2)
  - 委託先:鳥取県情報センター・モリックス・ソルコム(R2)
- ◇ヘルプセンター業務(R3)
  - 委託先:アクシス(R3)
- ◆鳥取市GIGAスクール運営支援センター業務(R4～)
  - 委託先:モリックス(R4～5)、ソルコム(R6～)

### 7 通信装置(カメラ・マイク)整備

- ◇カメラ、マイク整備(R2) 小・中学校1セット、義務教育学校2セット

### 8 Wi-Fiによるインターネット接続環境整備費助成金等

- ◇インターネット環境のない家庭への初期整備費支援(R2～)
- ◇準要保護家庭への通信費補助(R3～)

### その他

- ◇クラウド型セキュリティサービスライセンスの賃貸借(R3～)
- ◇授業目的公衆送信補償金(R3～)
- ◇端末故障時の修繕費(R3～)
- ◇学習eポータル「まなびポケット」・MEXCBT(R3～)
- ◇採点補助システム「百問繚乱(R4～)」:中・義務教育学校
- ◇オンライン英語授業「スパトル(R4～5)」、「イントラック(R6～)」:中・義務教育学校
- ◆「まなびポケット」を活用した保護者連絡のデジタル化(R7～)



## 4 利活用について



### (1) 鳥取市が進める利活用計画

|                         | 令和2年度<br>(2020年)          | 令和3年度<br>(2021年)             | 令和4年度以降<br>(2022年)                             | 令和8年度以降<br>(2026年)                             |
|-------------------------|---------------------------|------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 小学校<br>(義務教育学校<br>前期課程) | 小・義1～6年<br>週1回以上          | 小・義1～6年<br>1日1～2回以上          | 小・義1、2年<br>1日1～2回以上<br><br>小・義3～6年<br>1日2～3回以上 | 小・義1、2年<br>1日1～2回以上<br><br>小・義3～6年<br>1日3～4回以上 |
| 中学校<br>(義務教育学校<br>後期課程) | 中1・義7～<br>中3・義9年<br>週1回以上 | 中1・義7～<br>中3・義9年<br>1日1～2回以上 | 中1・義7～<br>中3・義9年<br>1日2～3回以上                   | 中1・義7～<br>中3・義9年<br>1日3～4回以上                   |

<日常のかつ効果的な活用を促進するために>

- 児童生徒用端末及びクラウドを活用した授業改善が行えるように、ICT活用・指導力向上に関する教職員研修(集合研修・校内研修)を実施(別途案内)
- クラウドを活用して、学校の授業でも家庭学習でも使用できる学習ドリルソフトの導入(R5～:eラーニング教材「ミライシード(ドリルパーク)」)
- 授業や校務で役立つ教員向けコンテンツ、児童生徒向けコンテンツの情報提供(鳥取市教職員ICT活用支援サイト「ギガサボ」)
- ◎健康観察や各種アンケート、係活動や児童会、生徒会活動、部活動等、授業以外でもタブレット端末及びクラウドを日常的に活用
- ◎登校後や休憩時間等のすきま時間やスキルタイム等の帯時間、家庭等でタイピング練習  
※参考…小学校6年生(卒業時):約60字以上(1分間)
- ◎保護者連絡用デジタルツールやWebアンケートフォーム等を活用し、欠席連絡や文書配付、アンケート等、学校と保護者間の連絡をデジタル化

4

## 4 利活用について



### (2) 鳥取市小・中・義務教育学校9年間で育てたい情報活用能力の体系表

| 分類           |                                                                   | 小・義務教育学校1・2年                                                                           | 小・義務教育学校3・4年                                                                  | 小・義務教育学校5・6年                                                                        | 中学校1～3年、義務教育学校7～9年                                                                   |
|--------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能       | 1情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能                                          | ・コンピュータの起動や終了、写真撮影等の基本動作ができる<br>・電子ファイルの呼び出しや保存ができる                                    | ・ローマ字で文字を入力する<br>・キーワード検索等でインターネット上の情報を検索・閲覧する<br>・身近な生活でコンピュータが活用されていることに気付く | ・ローマ字入力で文章を正確に入力する<br>・意図した処理を行うためのプログラムの作成、評価、改善を行う<br>・手順とコンピュータの動作の関係を理解する       | ・十分な速さで文章を正確に入力する<br>・情報のデジタル化や自動化の仕組みを理解する<br>・問題発見・解決のための適切なプログラムの制作や修正等ができる       |
|              | 2問題解決・探究における情報活用の方法の理解                                            | ・体験や人への質問、図書等、身近なところから様々な情報を収集する<br>・簡単な絵や図、表やグラフを用いて情報を整理する<br>・相手に伝えるようにプレゼンテーションを行う | ・調査や資料等により様々な情報を収集する<br>・観点を決めた表やグラフを用いて情報を整理する<br>・相手や目的を意識してプレゼンテーションを行う    | ・調査や実験・観察等により様々な情報を収集する<br>・目的に応じた表やグラフを用いて情報を整理する<br>・聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーションを行う | ・情報通信ネットワーク等から効果的に情報検索し、検証を行う<br>・表やグラフを用いて統計的に情報を整理する<br>・Webページ、SNS等で適切に情報発信・交流を行う |
|              | 3情報モラル・情報セキュリティ、デジタル・シティズンシップ等についての理解                             | ・人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があることを理解する                                                | ・自他の情報の大切さや、生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティについて理解する                                    | ・情報に関する自他の権利、通信ネットワーク上のルールやマナーを理解する                                                 | ・情報セキュリティ確保のための対策や対応、情報社会における自分の責任や義務を理解する                                           |
| 思考力、判断力等     | 1問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティ、デジタル・シティズンシップ等を含む) | ・体験や活動から疑問をもち、解決の手順を見通して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する                                     | ・収集した情報から課題を見つけ、解決に向けた活動を実現するために情報の活用の見通しを立て、実行する                             | ・問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試行等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する                   | ・問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する                         |
|              | 2情報モラル・情報セキュリティ、デジタル・シティズンシップ等についての態度                             | ・人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする                                                   | ・自他の情報の大切さを踏まえ、情報をやりとりする際のルールやマナーを守って行動しようとする                                 | ・情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする                                                    | ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする                                                     |
| 学びに向かう力、人間性等 | 1問題解決・探究における情報活用の態度                                               | ・人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする                                                   | ・自他の情報の大切さを踏まえ、情報をやりとりする際のルールやマナーを守って行動しようとする                                 | ・情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする                                                    | ・情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする                                                     |
|              | 2情報モラル・情報セキュリティ、デジタル・シティズンシップ等についての態度                             | ・人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする                                                   | ・自他の情報の大切さを踏まえ、情報をやりとりする際のルールやマナーを守って行動しようとする                                 | ・情報に関する自他の権利を踏まえ、通信ネットワーク上のルールやマナーを守って行動しようとする                                      | ・情報セキュリティ確保のための対策や対応の必要性を踏まえ、情報通信ネットワークの公共性を意識して行動しようとする                             |

5

## 4 利活用について



### (3) 児童生徒用端末を活用した学習場面とその例

| 分類        |                                                                                                                                                                                                                       | 小・義務教育学校1・2年                                                                                                                                                                                                                                                                            | 小・義務教育学校3・4年                                                                                                           | 小・義務教育学校5・6年                                                                                               | 中学校1～3年、義務教育学校7～9年                                                                                                                                |                                                                                                                                                  |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A<br>一斉学習 | A1 一斉学習                                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題をつかむために教師が提示する教材を、児童生徒用端末で共有する（全教科）</li> <li>児童生徒の考えを書いたノート写真を写真に撮り、大型モニターや電子黒板等を活用して、全体で共有する（全教科）</li> <li>動画コンテンツを視聴して、学習への興味・関心を高めたり、授業内容のおさえに活用したりする（全教科）</li> <li>学級の一人一人が端末に書き込んだ意見を授業支援ソフトで集約したり、可視化したりして、双方向の授業を展開する（全教科）</li> </ul> |                                                                                                                        |                                                                                                            |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                  |
|           | B1 個に応じた学習                                                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟の程度や誤答傾向に応じたeラーニング教材を活用し、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得する（国語・算数・数学・社会科・理科・英語等）</li> <li>自分の動きを写真や動画で撮影し再生することにより、技術面における自己の課題を見つけたり、課題解決の仕方を選んだりするときの資料とする（体育科）</li> </ul>                                                                        |                                                                                                                        |                                                                                                            |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                  |
|           | B<br>個別学習                                                                                                                                                                                                             | B2 調査活動                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>町探検の際に興味関心を抱いたことを撮影して記録する（生活科）</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家の方やお店の方へのインタビューを動画撮影して記録し、聞き取った情報を繰り返し映像で再生して確認する（社会科）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>通常見ることが困難な火山の噴火の様子や大きな地震の様子をインターネットで調べる（理科）</li> <li>修学旅行における訪問先の名所等についてインターネットを活用して調べる（総合的な学習）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>図書やマスメディア、インターネット等から収集した情報をデジタル化して保存する（総合的な学習）</li> <li>金属を電解質水溶液に入れる実験等で、観察、実験の結果を端末に記録する（理科）</li> </ul> |
|           |                                                                                                                                                                                                                       | B3 思考を深める学習                                                                                                                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>友達に知らせたい物や動植物等について、撮影した画像の説明したいところに印をつけたり、説明したいことを短い言葉で書き込んだりする（国語科）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>積み重ねたり並べたりするグラフを画面上で切り替え、目的に応じた適切なグラフを選択する（算数科）</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>収集した情報を比較・分類したり、複数ものを関連付けたり組み合わせたりするツールを活用して、新しい情報を創り出す（総合的な学習）</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>条件に合わせて図形の形を変え、図形を動的に観察することを通して、図形の性質を発見する（数学科）</li> </ul>                                                |
|           | B4 表現・制作                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>町探検で発見したことを写真に撮り、自分の言葉で説明する（生活科）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域や市の様子について、レポーターをつけて動画を撮る（社会科）</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化の情報を収集し、新聞にまとめ、発表する（理科）</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の画像や地域の人のインタビューをもとに、地域をPRする動画を制作する（総合的な学習）</li> </ul>                                                    |                                                                                                                                                  |
| B5 家庭学習   | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒用端末を家庭に持ち帰り、動画やeラーニング教材等を用いて授業の予習・復習等を行う（全教科）</li> <li>教師が用意したビデオ授業を自宅で視聴したり、送信された課題に自宅で取り組んだりする（全教科）</li> <li>文章作成ソフト、プレゼン作成ソフト等を使用して、日記や作文、発表用スライド等を作成する（全教科）</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                        |                                                                                                            |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                  |

6

## 4 利活用について



| 分類        |             | 小・義務教育学校1・2年                                                                                                                   | 小・義務教育学校3・4年                                                                                                           | 小・義務教育学校5・6年                                                                                                                    | 中学校1～3年、義務教育学校7～9年                                                                                                           |
|-----------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| C<br>協働学習 | C1 発表や話し合い  | <ul style="list-style-type: none"> <li>町探検の際に撮影した画像を拡大して写し、気づいたことを分かりやすく伝える（生活科）</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内見学でグループごとに集めた画像や動画を基に、調べて分かったことを分かりやすく伝える方法を話し合い、発表する（社会科）</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の意見や感想を大型モニターに一覧表示して確認し合い、他の児童の意見や感想を比較し、クラス全体での交流を活性化させる（国語科）</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトを活用して、自分の考えを聞き手に分かりやすく説明したり、コメント機能を活用して相互に助言したりする（全教科）</li> </ul>         |
|           | C2 協働での意見整理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>町探検で撮影した写真をもとに、町の安全箇所について意見を出し合い、情報を共有する（生活科）</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の児童が同じ画面を見ながら、それぞれのアイデアを記入したり、コメントをつけたりできるツールを活用して、情報を整理する（総合的な学習）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の児童が同じ画面を見ながらそれぞれのアイデアを記入したり、コメントをつけたりできるツールを活用して、情報を整理し、よりよい表現に活かす（総合的な学習）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>端末を用いて、複雑な数値計算やグラフの作成を短時間でやり、数量や図形に関する事実や手続き、思考の過程や判断の根拠等を的確に表現して共有する（数学科）</li> </ul> |
|           | C3 協働制作     | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで生物等の様子や成長過程を観察し、写真や動画等を蓄積・共有し、気づいたことに印をつけたり、簡単な説明を記入したりして観察日記を作成する（生活科）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市の土地の使われ方や交通の様子、公共施設等をグループで役割分担してまとめ、市のよさが伝わるガイドブックを作成する（社会科）</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>端末でコマ撮りした画像をグループで組み合わせて編集し、アニメーション作品をつくる（図画工作科）</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信機能をもつプログラムを、サーバ用とクライアント用で分担して制作する（技術家庭科）</li> </ul>                               |
|           | C4 遠隔学習     | <ul style="list-style-type: none"> <li>町探検でお世話になった方に、ビデオメッセージを送信する（生活科）</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>Web会議を活用し、遠隔地のネイティブスピーカーと1対1で、リアルタイムでのコミュニケーションを体験する（外国語活動）</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔地の博物館や科学館等社会教育施設の専門家に講義を受けたり、インタビューや質問をしたりする（社会科、理科）</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校などに向けて情報を発信し、意見を交流する（英語科）</li> </ul>                             |

- 児童生徒用端末の画面を電子黒板や大型モニター等に拡大提示して、児童生徒の考えや意見等を可視化するとともにクラウドで共有・参照する。
- 日常的に家庭にタブレット端末を持ち帰って家庭学習に活用し、授業と家庭学習との連動を図る。（原則、毎日持ち帰って活用する）
- 災害や感染症による学校休業時には、家庭に持ち帰っているタブレット端末を使用してオンラインホームルームやオンライン授業等を実施する。
- オンラインによる学習ドリルソフトやWeb会議システムを活用し、長期入院や不登校等の児童生徒の学習を支援する。

7

## 4 利活用について



| A 一斉学習                                                                                                                               | B 個別学習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | C 協働学習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p> <p><b>A1 教師による教材の提示</b></p> <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p> | <p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p> <p><b>B1 個に応じた学習</b></p> <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p> <p><b>B2 調査活動</b></p> <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p> <p><b>B3 思考を深める学習</b></p> <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p> <p><b>B4 表現・制作</b></p> <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p><b>B5 家庭学習</b></p> <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p> | <p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p> <p><b>C1 発表や話し合い</b></p> <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p> <p><b>C2 協働での意見整理</b></p> <p>複数の意見・考えを議論して整理</p> <p><b>C3 協働制作</b></p> <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p> <p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p> <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p> |

◆令和3～7年度の「鳥取市ICTを活用した授業づくり研修」で作成した各学校の実践事例紹介資料を、校務支援システム(C4th) 書庫の下記フォルダに掲載していますので、ご参照ください。  
 「ICTを活用した授業づくり研修 情報交換資料」 C4th書庫⇒鳥取市⇒03\_鳥取市総合教育センター⇒10\_GIGAスクール構想

## 5 鳥取市第2期学校教育情報化推進計画について



本市はこれまで、児童生徒の情報活用能力や、教職員のICT活用指導力の向上を目的とし、段階的に学校現場へのICT機器整備を進めてきました。  
 このたび、Society 5.0時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成を見据え、学校教育の情報化について本市の目指すべき姿を明確にします。  
 これにより、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実、および先端技術も視野に入れたより効果的なICT環境の実現を図るため、「第2期鳥取市学校教育情報化推進計画」を策定します。

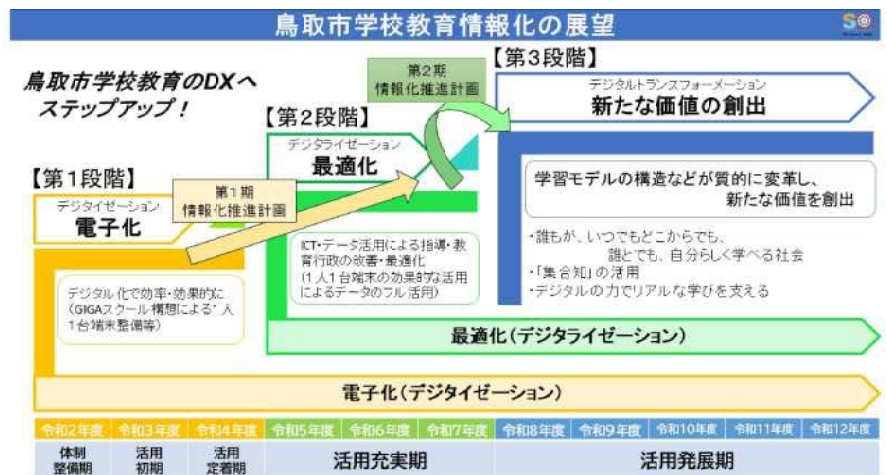
※下のURL、画像クリック、または、右のQRコードから「鳥取市学校教育情報化推進計画」にアクセスできます。

URL : <https://www.city.tottori.lg.jp/page/7355.html>



第2期  
鳥取市学校教育情報化推進計画

令和8年4月  
鳥取市教育委員会



※文科省「教育DX・教育データの活用について(令和4年3月2日)」(教育DXロードマップ(令和7年6月13日))「初等中等教育における数値データの活用等」の取組について(令和8年6月22日)

※本市学校教育の情報化の方針：鳥取市学校教育情報化推進計画より抜粋

# 第2章 運用ガイドライン

## 1 タブレット端末(iPad)

### (1) 端末について



第2期児童生徒1人1台端末  
令和8年～令和13年

①モデル  
iPad (A16) Wi-Fiモデル

②ストレージ  
128GB

③コネクタ(充電)  
USB-C

これまでの充電ケーブルが  
使えないのでご注意ください



#### 〔その他の主な変更点や操作〕

- ✦ 小学校、中学校、義務教育学校全てがキーボード付きのカバーに統一
- ✦ 利用する全員に、パスコードの設定が必須

|                                                         |                                                       |                                                                           |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>ホームボタンとカメラ</b></p> <p>ホームボタンがない<br/>カメラの位置が変更</p> | <p><b>ホーム画面に戻る</b></p> <p>トップ画面の下端から<br/>上にスワイプする</p> | <p><b>スクリーンショット</b></p> <p>トップボタンとどちらかの<br/>音量ボタンを同時に押し<br/>て、すばやくはなす</p> |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|

- 端末の利用者を識別するために、端末の裏面等に学校で使用している名前シール等を貼っても構いません。
- 端末の管理番号シールをはがさないでください。

### (2) MDMによる管理・制限

- 鳥取市の全ての端末を一括で管理するために、MDM(Mobile Device Management:モバイルデバイス管理)を導入しています。MDMは教育委員会と委託業者で設定、管理運用を行います。学校で設定変更等はありません。
- 個々の端末にはApple IDを設定せず、全ての端末をMDMで管理します。iCloudは使用しません。
- 画面ロックを解除するパスコードは、個人情報保護等の観点からすべての端末でパスコードを必須とします。必ず初期パスワード(●●●●(4桁))から変更して下さい。教員は、必ず6桁のパスコードを設定して下さい。
- 初期設定してあるアプリケーション等以外に追加を希望する場合は、市総合教育センターに「(様式1)アプリケーション等追加申請書」を提出して下さい。審査を経て、アプリケーション等をMDMで配信します。
- 自動OSアップデートは行いません。手動でアップデートを行いますが、OSアップデートには数十分から数時間を要するので、日中にOSアップデートをすると授業で使えない恐れがあり、おすすめしません。(夜間に学校や家庭でアップデートして下さい)

### (3) 端末の学年持ち上がり

- 原則として、学年を持ち上がって卒業まで使用します。
- 年度末には、不要なWebショートカットキーを削除したり、端末内のデータをクラウドに保存したりする等、端末のリフレッシュ期間を設けます。(詳細は別途通知します)
- 卒業する児童生徒の端末を新入生に引き継ぎます。卒業する児童生徒の端末については、年度末に、MDMによって端末の初期化を行います。
- 年度末に、次年度児童生徒数に合わせた、各校の端末台数の調整は、第2期から原則行いません。ただし、人数の増減が多い学校は、個別に対応します。

## 2 アプリケーション等



- (1) 初期設定されているアプリケーション等について ※令和8年度～  
 ・下記のアプリケーション等が初期設定されています。

| Apple純正アプリ<br>配信アプリ                                                                           | Google Workspace関連<br>セキュリティ、その他アプリ、その他                                                                      | Webページ                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| Safari<br>カメラ<br>写真<br>時計<br>計算機<br>ボイスメモ<br>メモ<br>ファイル<br>設定<br>＜配信アプリ＞<br>Jamf Self Service | Google Chrome<br>Google ドライブ<br>Google スプレッドシート<br>Google ドキュメント<br>Google スライド<br>Google Classroom<br>Gmail | ＜Webページ＞<br>ミライシード<br>まなびポケット<br>鳥取市教育委員会<br>鳥取市立図書館<br>きみの好き応援サイト |

アプリ配信用アプリ「Self Service」から追加するアプリをインストールできます。  
 追加可能なアプリについては、「アプリカタログ」からご確認ください。

- (2) アプリケーション等の追加について

・アプリケーション等の追加を希望する場合は、(別紙 様式1)アプリケーション等追加申請書を市総合教育センターに送付してください。審査後、MDMで配信します。

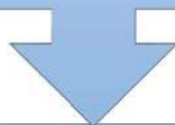
## 2 アプリケーション等



- (3) アプリケーション等追加の流れ

①学校で追加を希望するアプリケーション等を申請

- ・(別紙 様式1)アプリケーション等追加申請書を市総合教育センターに送信  
 ※学校業務支援システムC4th個人連絡で送信してください



②市総合教育センターで審査・認可

- ・学習の質、効果の向上及び学習内容の定着に有益なものであること
- ・無料アプリかつ信頼できるものであること



③MDMでアプリケーション等を配信

- ・MDMで全ての端末のSelf Serviceアプリに配信  
 (各自でインストールが必要) ※アプリカタログをご参照ください。



## 2 アプリケーション等



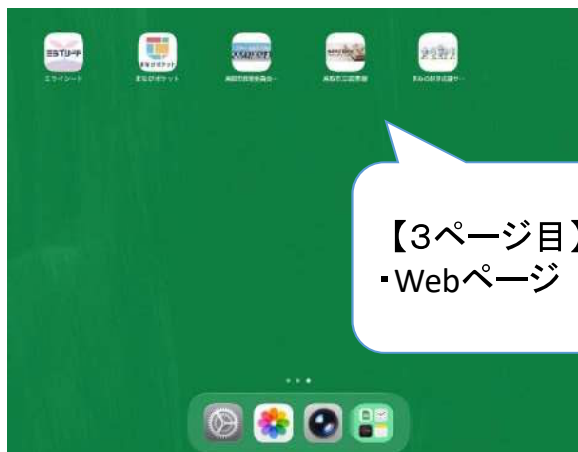
### (4) ホーム画面の構成



【1ページ目】  
・Apple 純正アプリ  
・配信アプリ



【2ページ目】  
・Google Workspace関連  
・セキュリティ、その他アプリ、  
その他



【3ページ目】  
・Webページ

15

## 2 アプリケーション等



### (5) 個別の教育的ニーズに応じた支援



□ iPadの「設定」⇒「アクセシビリティ」から視覚サポートや聴覚サポートに関する設定を行うことができます。

□ iPadの「設定」⇒「画面表示と明るさ」からテキストサイズや文字の太さを変更することができます。

□ 児童生徒の個別の教育的ニーズに応じてiPadの諸設定を変更して使用してください。

□ 「T式ひらがな音読支援」アプリが使用できます。ひらがな読みの定着や語彙指導に活用してください。

□ デイジー教科書の使用を希望する場合は、特別支援教育係にお知らせください。

□ 今後も、個別の教育的ニーズに応じた支援に活用できるアプリを追加していきます。



16

## 2 アプリケーション等



### (6) アプリカタログ(アプリ一覧表)

・これまでに追加したアプリの一覧表をC4th書庫に掲載していますので、ご参照ください。



17

## 3 タブレット端末の保管・充電



- タブレット端末は、日常的に使用するのので、児童生徒は、端末を自分の机の引き出し等に入れて、すぐに使用できるようにしてください。
- 学校で端末を保管する際は、児童生徒が端末を収納して下校した後、電源キャビネットを施錠するようにしてください。(翌朝、解錠してください。)
- 電源キャビネット以外の場所で端末を充電・保管する場合は、職員室やコンピュータ室等、鍵がかかる場所での保管をお願いします。
- 教員がタブレット端末を持ち帰る際は、各校で作成している持ち帰り台帳等に記載するなど、管理を徹底してください。

## 4 Googleアカウント



- Googleアカウントを教員と児童生徒一人一人に配付します。
- 児童生徒用アカウントは、小・義務教育学校1年から中学3年・義務教育学校9年まで同一のアカウントを使用し、鳥取県立高等学校に進学した場合は、高等学校でも同一のアカウントを使用します。
- Google Classroom や Google Meet等のアプリを使用するので、まず、配付されたアカウントでGoogleにログインしてください。
- Googleアカウントの初期パスワードは「■■■■■■■■■■」です。初回ログイン時に必ずパスワードを変更してください。※初期パスワードは学校配付文書に記載してあります。
- パスワードは、8文字以上で、必ず数字や文字を組み合わせで設定してください。
- 配付したGoogleアカウントや変更したパスワードは、原則として、各自で管理します。
- 小・義務教育学校1、2年生や3、4年生については、授業中に児童がアカウントやパスワードを忘れたときにも素早く対応できるように、担任がアカウントやパスワードを保管しておいてもよいこととします。
- 配付したGoogleアカウントは、家庭の端末等、校外の端末からもログインして使用することができます。
- 各学校に配布しているパスワードリセット用アカウントで、児童生徒用アカウントのパスワードをリセットしたり、名前を修正したりすることができます。
- Googleアカウントの追加、削除、転出入処理等を希望する場合は、市総合教育センターに連絡してください。

19

## 5 データの保存



- 端末で撮影した画像や、児童生徒が作成した文書、プレゼンテーション等は、基本的にGoogleドライブに保存します。
- 端末本体に画像等のデータを残したままにせず、定期的に必要なデータはGoogleドライブに保存し、不要なデータは削除するようにします。
- Windows端末等で作成したパワーポイントやエクセル等のデータもGoogleドライブに保存することで、教員が使用している端末のiPadから使用することができます。
- 教材や資料、行事等の提案文書もGoogleドライブで共有し、業務の効率化を図ってください。
- 端末本体やGoogleドライブに、学習成果物や学習課題、小テストやアンケート等を保存することは可能ですが、児童生徒の成績情報や家庭環境等の機微な個人情報を扱うことは禁じます。

※Googleドライブ(アプリ)の使い方の詳細については、

Googleヘルプ 【URL】<https://support.google.com> を参照してください。

20

□学校に配備するタブレット端末の使用規定については、「鳥取市立学校タブレット端末使用規定」を参照してください。

□タブレット端末は、原則として学校及び家庭での学習に使用します。ただし、校外施設等の見学や野外での体験活動等の教育活動、感染症対策及び災害時等において、管理責任者が許可した場合は、校外施設や野外等で使用することを認めます。(鳥取市立学校タブレット端末使用規定 第7条の5)

□使用規定の内容は、今後の端末の使用状況に応じて改定していきます。

## 7 タブレット端末活用のルール・約束

□「鳥取市立〇〇〇学校【タブレット端末活用のルール】について(案)」を参考にし、各校でタブレット端末活用のルールを作成してください。

□各校で作成したタブレット端末活用のルールは、年度当初に児童生徒及び保護者に配付し、共通理解を図ってください。

□様々な機会をとらえて活用方法について児童生徒と教職員が対話を繰り返し、児童生徒の発達段階や各校の実態に応じた約束やルールを創り出してください。

※生徒指導提要(令和4年12月)文部科学省

【URL】[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1404008\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm)

- 児童生徒がICTの善き使い手となり、持続可能な社会の創り手となるために、責任をもってテクノロジーを使う行動規範を身に付けることが大切です。
- 児童生徒の発達段階に応じて、デジタル・シティズンシップ教育、情報モラル教育を計画的に実施してください。

### ＜デジタル・シティズンシップ教育 教材等＞

#### ◆(Future Learning Lab) 教材ライブラリ

Full／国際大学GLOCOMが開発したオリジナル教材を公開・配布しています。

【URL】<https://full-glocom.jp/resources>



23

## 9 健康面への配慮

- 端末を使用する際の姿勢を適切に指導し、児童生徒の目と画面との距離を30cm程度以上とるようにしてください。
- 端末を長時間連続で見続けられないよう注意し、30分程度を目安に、目を休めるようにしてください。
- 目の負担を軽減するために、画面の明るさを調整してください。



## 10 端末の校外への持ち出し、家庭への持ち帰り



- 1人1台端末は、学校及び家庭での学習に使用します。
- 校外施設等の見学や野外での体験活動等の教育活動、感染症対策及び災害時等において、校長が許可した場合は、端末を校外に持ち出し校外施設や野外等で使用することを認めます。
- 端末は、学習目的に活用すること、誰もが安心・安全に活用するための使用ルール等を学年や発達段階に応じて指導してください。
- 家庭へ持ち帰った場合も安全に端末を使用できるように、各端末に「Cisco security conecter」が自動でインストールされています。
- 長期入院や不登校等、やむを得ない理由で登校できない児童生徒の学習支援等に、家庭に持ち帰っている端末を積極的に活用してください。
- 家庭での使用に関して保護者の理解を得られるように、児童生徒と保護者に使用の確認書をとります。(児童生徒1人1台端末(iPad)の利用についての確認書(案))確認書は、学校で保管してください。
- 端末は、原則として毎日家庭に持ち帰り、家庭学習や家庭との連絡に使用します。また、**発達段階等に応じて持ち帰りの頻度を設定・調節することも可能です。持ち帰る目的や活用方法を、各校で今一度十分に検討してから持ち帰るようにしてください。**
- 持ち帰った端末を活用した宿題を出す場合には、家庭にWi-Fiによるインターネット接続環境がない児童生徒に不利益がでないように留意してください。一方で、オンラインでの発展的な学習をする児童生徒がいても、これを妨げないこととします。
- 家庭でのWi-Fi接続は、各家庭で行います。接続方法は、市販のiPadと同様です。
- 端末は、市役所や市立中央図書館、公民館等の公共Wi-Fiに接続して使用することも可能です。

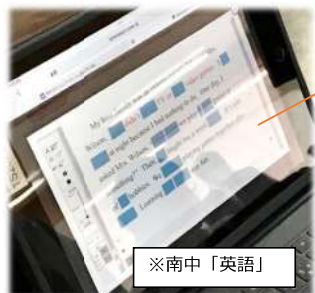
25

## 10 端末の校外への持ち出し、家庭への持ち帰り



### <端末を持ち帰った際の家庭学習例>

### 授業と家庭学習との連動を意識して



※南中「英語」

#### 「学習者用デジタル教科書（英語）の日常的な活用」

- 教科書本文等について、読み上げ速度やマスク機能を児童生徒一人一人の習熟度やペースに合わせて設定し、何度も繰り返しリスニングする。
- 「リスニング⇔音読」を反復する。
- 学校でも家庭でも繰り返し活用することで、正確な発音や単語、表現等の定着が期待される。
- ✓ 教師は児童生徒の実態に応じた機能設定の工夫を助言する。



※高草中「社会科」

#### 「課題のまとめや発表用スライドの作成」

- 総合的な学習の時間をはじめ、各教科で調べたことを整理、分析し、スライドにまとめる。(家庭で何度も試行錯誤して修正する。)
- グループや学級全体で各自のスライド内容の共通点や相違点等について話し合い、新たな気づきを加えて思考を深める。
- 共同編集している場合は、コメント機能で相互に助言等を行うことができる。
- 授業時間や場所の壁を超え、児童生徒が主体的に課題解決に向けて探究のサイクルを回していくことが期待される。
- ✓ 教師は、児童生徒の進捗状況を確認し、スライド内容等について、適宜、助言する。



※倉田小「算数」

#### 「ミライシード（オクリンク・オクリンクプラス）で予習（事前学習）し、課題意識をもって授業に臨む」

- オクリンクで配信された教科書の問題に家庭で取り組み、解答等を共有する。
- 事前に自分なりの考えや、疑問をもって授業に臨み、学級での話し合いでの意見交流に活かす。
- 家庭で予習（事前学習）していることで、授業では、協働的な学びの時間をより多く捻出したり、より多くの適用問題に触れたりする時間をより多く捻出することが期待される。
- ✓ 教師は、児童生徒の解答内容やつまづき等を把握し、授業での支援につなげる。



26

## 11 不具合、故障、破損等への対応



□業者委託による「鳥取市GIGAスクール運営支援センター」を設置し、端末や通信ネットワークの不具合、故障等に対応(現地対応含む)します。連絡先等は、別途通知します。

※業務委託先:株式会社ソルコム

□児童生徒用端末や教員が使用している端末に不具合が生じたときは、まずは、再起動を試してください。再起動等を行っても不具合が解消しない場合は、鳥取市GIGAスクール運営支援センターに連絡してください。

□落下、水没等による故障、破損の場合は、すみやかに鳥取市GIGAスクール運営支援センターに連絡してください。

□鳥取市GIGAスクール運営センターが、学校から端末の不具合、故障、破損等の連絡を受けた際は、状況に応じて現地対応します。

□紛失、盗難の場合は、すみやかに市総合教育センターに連絡してください。

□故障や破損、紛失や盗難の際には、ICT機器等の事故報告を市総合教育センターにしてください。

27

## 12 校内通信ネットワーク(校内通信NW)



□校内通信NWは、児童生徒用端末が接続されている学習系NWと職員室の校務パソコンが接続されている校務系NWに分離されています。

□児童生徒用及び教員用のタブレット端末(iPad)は、校内通信NW(学習系)のWi-Fiに自動的に接続されます。(校務系ネットワークには接続できません)

□校内通信NWには、原則として、私物のパソコンやタブレット端末等を接続することはできません。校内研修等で外部講師の端末等を校内通信NW(学習系)に接続したい場合は、市総合教育センターに連絡ください。

□無線アクセスポイント(無線AP)は基本的に普通教室及び特別教室に設置しています。無線APがなくても校内通信NW(学習系NWのWi-Fi)につながる教室もありますので、学習系NWのWi-Fiにつながりやすい場所、つながりにくい場所をお確かめください。

□学習系NWは、令和3年3月にTorikyo-NETを経由してSINET(サイネット)への接続に切り替わっています。(SINET:大学系の高速通信ネットワーク)

□SINETを利用するにあたり、フィルタリングソフト(Cisco Umbrella)を全県で統一して導入しています。

□児童生徒系ネットワークに接続した端末で、児童生徒の成績情報や家庭環境情報等の機微な個人情報を扱うことを禁じます。

28

□体育館や中庭、校庭等、学習系NWのWi-Fiがつながりにくい場所や、校外学習等でインターネットに接続して学習できるよう、同時多接続可能な可搬型Wi-Fiルーターを整備しているため、状況に応じて活用してください。

・R4～ 各学校:1台 ※大規模校、義務教育学校:2台



□臨時休校等の際に、市教委所有の小型Wi-Fiルーター(10台)を、1日から1カ月程度、学校に貸し出すことが可能です。貸し出しを希望する場合は、市教委学校教育課指導係に連絡してください。



29

## 14 大型提示装置(大型モニター・電子黒板・プロジェクター)

□平成30年度から、各学校に大型提示装置(大型モニター、電子黒板又はプロジェクター)の配備を進め、令和4年度内に、全学級に配備しました。

□故障や破損、紛失や盗難の際には、(様式2)事故報告書を市総合教育センターに提出してください。



- Webカメラ、マイク(スピーカー)は、各校に1セット(義務教育学校は2セット)ずつ配備しています。



- Web会議システムによる遠隔授業や他校との交流、遠隔研修の受講等の際に、活用してください。
- 災害や感染症等による臨時休業の際にも児童生徒の学ぶ機会を保障するため、オンライン学習(オンライン授業)を実施できるよう、GoogleClassroomを日常的に活用し、GoogleMeetへの接続方法を教職員と児童生徒で確認してください。

## 16 端末管理台帳、使用者名簿

- 端末管理台帳を管理し、各学校で保管してください。
- 学校は、端末管理台帳を基に、児童生徒の端末使用者名簿を作成し、端末の使用者を記録してください。

## 17 授業支援ソフト(Google Workspace、ミライシード等)



- 汎用的な授業支援プラットフォームとして、Google Workspaceを活用します。



2024年12月31日でGoogleのデジタルホワイトボード「Google Jamboard(ジャムボード)」の提供が終了しました。今後は、「Canva(キャンバ)教育版」、「Figjam(フィグジャム)教育版」、「Miro(ミロ)」、「Padret(パドレット)」、「ふきだしくん」等のデジタルホワイトボードを活用してください。

- 学習のねらいや内容に応じて、eラーニング教材「ミライシード(オクリンクプラス)」等の授業支援ソフトを活用してください。



33

## 18 学習eポータル、MEXCBT



- 学習eポータルとして、「まなびポケット」を活用します。

※まなびポケットサポートサイト

【URL】<https://manabipocket.ed-cl.com/support/>



- 文部科学省CBTシステム「MEXCBT(メクビット)」には、学習eポータル「まなびポケット」経由で接続します。

- 全国学力・学習状況調査やとっとり学力・学習状況調査のCBT調査を「まなびポケット」経由でMEXCBTに接続して実施するので、必ず、事前にログインや操作等を確認するようにお願いします。

- 学習eポータル「まなびポケット」では、MEXCBTで配信されている他自治体の学力調査問題や、無料のデジタルドリル「Eboard(イーボード)」を使用することができます。

34

□Google Workspaceのスプレッドシートやカレンダーの共有等、クラウドを日常的に活用し、業務を効率化していきましょう。

＜校務におけるICT活用例＞

- ・Googleドライブによる教材や資料、文書の共有(ペーパーレス化)
- ・校務用ポータルサイト(Googleサイト)による情報の一元化
- ・教職員Chat(チャット)による迅速、正確な情報伝達・共有
- ・Googleフォームによるアンケート集計の自動化
- ・生成AI(Gemini等)による文書の下書き、アンケート集約、議事録作成 等

※「全国の学校における働き方改革事例集(令和5年3月)」文部科学省

【URL】[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/hatarakikata/mext\\_00008.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/mext_00008.html)

## 20 保護者連絡のデジタル化

□連絡に係る学校と保護者双方の負担を軽減し、迅速かつ正確な連絡を行うために、連絡メールアプリ等を活用し、原則、欠席連絡や文書配付等、学校と保護者との連絡をデジタル化します。

※令和7年度から、学校と保護者間との連絡用ツールを

「マチコミメール」から「まなびポケット保護者向け連絡機能」に変更

＜学校と保護者間の連絡のデジタル化例＞



- ・欠席・遅刻連絡
- ・学校だより等の文書配信(メール文に文書掲載URLを記載等)
- ・アンケート配信(メール文にWebアンケート用フォームのURLを記載等)
- ・時間割や持ち物等の連絡をGoogleクラスルームに配信し、児童生徒と保護者に共有
- ・学校行事予定をGoogleカレンダーで保護者と共有
- ・保護者との面談日程をGoogleカレンダーで日程調整 等

## 21 鳥取市教委が作成しているポータルサイト



- 鳥取市教育委員会ポータルサイトでは、市教委電子かわら版「とっとりEdu+（えでゅぷらす）」等で、部活動の地域移行や働き方改革等、様々な情報を発信しています。
- 企業・団体等からのチラシやイベント情報は、原則として、市教委ポータルサイトに掲載して広報します。

【URL】<https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/tottorisi-edu/>



- 鳥取市教職員ICT活用支援サイト「とっとりギガサポ」では、コピーして使えるテンプレートやGoogle Workspace設定等のショート動画等、便利なツールや資料等を掲載しています。

【URL】<https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/tottori-city-giga-support>



- 鳥取市が採用している各教科書会社のデジタル教科書のログインURLをまとめたサイトです。指導者用デジタル教科書の入り口としてご利用ください。（原則鳥取市の教員の使用とします。）。

【URL】<https://tottori-school.my.canva.site/digibook>



※鳥取市教職員ICT活用支援サイト「とっとりギガサポ」には、教職員用Gアカウントにログインした状態でアクセスしてください。

37

## 22 中学校技術・家庭科(技術分野)内容「D 情報の技術」の教材について



- 教育委員会が中学校技術・家庭科(技術分野)の教材として提供してきた、「ライフイズテック レッスン」が令和7年度で提供が終了しました。それに伴い、鳥取市教職員ICT活用支援サイト「とっとりギガサポ」で随時教材を紹介していきます。



### 《教材の貸し出しについて》

鳥取市教育委員会では、中学校技術科用教材の貸し出しを行っています。「Smart Cutebot＋micro:bitセット」または「micro:bitセット」を、1クラス分単位で貸し出すことができます。希望される学校は、鳥取市ICT活用支援サイト「とっとりギガサポ」より申し込んでください。

### 《参考サイト(一例)》

授業で使えるプログラミング教材 プログル技術

<https://middle.proguru.jp/>



中学校技術・家庭科(技術分野)内容「D 情報の技術」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_00617.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00617.html)



38

<鳥取市GIGAスクール構想に関する問合せ>

# 鳥取市GIGAスクール運営支援センター

令和6年4月1日～ TEL 050-8892-0971

※業務委託先:株式会社ソルコム

鳥取市教育委員会事務局

端末等機器について...鳥取市総合教育センター TEL 0857-36-6060

利活用について.....学校教育課指導係 TEL 0857-30-8412

## もっと知りたい！

教員向けのサポートサイトをご覧ください。

Apple

<https://www.apple.com/jp/education/k12/apple-teacher/>



Google

[https://edu.google.com/intl/ja\\_ALL/products/gsuite-for-education/](https://edu.google.com/intl/ja_ALL/products/gsuite-for-education/)



鳥取市総合教育センターHP  
「鳥取市GIGAスクール構想について」

- (リンク)
- 鳥取県教育委員会HP
  - 文部科学省HP
  - 国立教育政策研究所HP
  - NITS独立行政法人教職員支援機構HP
  - 子供の学び応援サイト(文科省)
  - StuDX Style(文科省)
  - GIGA HUB WEB(一般社団法人 ICT CONNECT21) 等

